

13 課

6月27日

神の言葉によって生きる



安息日午後 6月20日

今週のテーマ

暗唱聖句

そして、御言^{みことば}を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。(ヤコブ 1:22、口語訳)

御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になつてはいけません。(ヤコブ 1:22、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ 2:12～16、ルカ 4:4、8、10～12、詩編 37:7、46:11 (口語訳 46:10)、62:2、3、6 (口語訳 62:1、2、5)、コロサイ 3:16

聖書研究の最上の方法も、もし私たちが聖書から学んだことに従って生きようと決心しなければ、まったく役に立ちません。教育全般に当てはまることは、とりわけ聖書研究にも当てはまります。つまり、私たちが最上の学びをできるのは、単に読んだり、聞いたりすることによってではなく、知ったことを実行することによってなのです。このような従順さは、(さもなければ私たちに閉じられているであろう) 神の祝福が詰まった宝物庫を開き、私たちの理解と知識が深まるように、刺激的かつ人生を変えるような方法で私たちを導きます。もし私たちが自ら進んで神の言葉に従わず、学んだことを実行しようとしなければ、私たちは成長しないでしょう。そして、私たちのあかしは機能しないでしょう。なぜなら、私たちの生活が私たちの言葉と一致していないからです。

私たちは、神の言葉によって生きるとはどういうことかを説明する感動的な手本によって、恵みと知恵において成長します。イエス・キリストよりも良い手本、彼よりも動機づけとなる強い力はありません。キリストは私たちに見習うべき模範を示してくださいました。彼は神の御旨と完全に一致した人生を送られたのです。

私たちは今週、神の言葉によって生きるとはどういうことか、神の権威の下で生きるとはどういうことかを研究します。

神の言葉を注意深く、適切な方法で研究することは、極めて重要です。聖書研究の目的は、私たちが神の言葉を使いこなすことではなく、神の言葉が私たちを使いこなす（服従させる）こと、つまり私たちの生き方や考え方を変えることです。私たちが学んだ真理を自ら進んで生きるというのは、聖書の真理に喜んで従うことを意味します。私たちは、だれが私たちの思考や生活における支配権を握るかを巡って戦っています。そして最終的に、私たちが付くべき側は神様の側かサタンの側の二つしかありません。

問1 フィリピ2：12～16を読んでください。これらの聖句は、私たちがいかに生きるべきか、ということについて何とっていますか。

確かに、神は私たちの内に働かれますが、それは聖霊を通してであり、その聖霊だけが、聖書を理解するための知恵を私たちに与えてくださるのです。また、私たち人間は罪深いので、しばしば神の真理に逆らい、神の言葉に従わないように好き勝手なことをします（ロマ1：25、エフェ4：17、18）。聖霊なくして、神のメッセージに心惹かれることはありません。聖霊なくして、希望も、信頼も、応答としての愛もありません。確かに神は、聖霊を通して「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられる」（フィリ2：13）のです。

聖霊は、私たちが聖書をより深く理解できるように導き、私たちに神の言葉を喜ばしいものと認識させたいと願っておられる教師です。聖霊は私たちの注意を神の言葉の真理に向けさせ、それらの真理についての新たな洞察を与え、私たちの生活が忠実さと、神の御心に対する愛情のある服従とで特徴づけられるようにしてください。「聖霊の助けなしに聖書を説明することは、だれにもできない。しかし、謙遜かつ素直な心で神の言葉を手にするとき、神の御使いたちがあなたのそばにいて、真理の証拠であなたに感銘を与える」（『セレクトッド・メッセージ』第1巻411ページ、英文）。このようにして、霊的事柄は霊的に解釈され（Iコリ2：13、14）、私たちは「朝ごとに」（イザ50：4、5）喜んで神の言葉に従うことができます。

フィリピ2：16には、私たちは「命の言葉をしっかり保つ」べきであると書かれています。これはどういう意味だと思えますか。私たちはどのようにそれを実行したらよいのでしょうか。申命記4：4も参照してください。そこでも同じようなことが教えられています。その過程全体において、私たちの果たすべき役割は何ですか。

イエス・キリスト以上に、^{なら}倣うべきより良い手本、刺激的な手本はありません。彼は聖書を熟知しており、書かれている神の言葉に自ら進んで従い、それを守られました。

問2 ルカ 4：4、8、10～12 を読んでください。サタンの誘惑に対抗するために、イエスはどのように聖書を用いておられますか。このことは、聖書がいかに私たちの（とりわけ、誘惑の際に）信仰の中心であらねばならないかということについて、何を物語っていますか。

イエスは聖書をよくご存じでした。彼は神の言葉を熟知しておられたので、何も見ずに引用することができました。書かれている神の言葉にこれほど精通しておられたのは、聖書を研究することで神と貴重な時間を過ごされた結果に違いありません。

悪魔でさえ聖書から引用し、だます目的のために聖句を用いました。従って、悪魔がしたのと同じように、聖句を引用できるだけでは十分ではありません。イエスのように、神の言葉に精通することによってのみ、私たちは神の敵にだまされず、サタンの攻撃に耐えることができます。私たちは再三、イエスが、「〔聖書に〕書いてある」（ルカ 24：45、46、マタ 11：10、ヨハ 6：45 ほか）ことに弟子たちを注目させることで彼らの心を開き、聖書を理解させられた記事を読みます。イエスは、聖書を読む人がその意味を正しく理解できると考えておられました——「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」（ルカ 10：26）。イエスにとって、聖書に書かれていたことは、私たちの生き方の指針とすべき基準なのです。

イエス（肉となられた神の言）はヨハネ 7：38 において、弟子たちの注意を聖書に書いてあったことに向けられました。私たちは聖書を通してのみ、イエスが約束されたメシアであるとわかります。彼についてあかししているのが聖書です（ヨハ 5：39）。イエス御自身が自ら進んで聖書に、書きあらわされた神の言葉に従われました。もし彼が進んでそうされたのであれば、そのことは、私たちがすべきことについても何を物語っていますか。

誘惑との戦いにおいて聖書を用いたどのような体験を、あなたは持っていますか。言い換えれば、誘惑を受けたとき、あなたは聖書を読み始めたり、聖書から引用したりしましたか。結果として、どのようなことが起きましたか。その体験から、どのようなことを学びましたか。

問3 ヨハネ5：45～47を読んでください。イエスは、御自分と聖書の関係について、どのような力強いメッセージをここで与えておられますか。

イエスは旧約聖書の言葉にしばしば同意されなかったと主張する人たちがいます。彼らは、イエスの言葉を聖書の言葉の上にさえ置きます。

新約聖書には、イエスが「あなたがたも聞いているとおり、……と命じられている。しかし、わたしは言うておく」（マタ5：43、44、5：21、22、27、28、33、34、38、39と比較）と言われた、と書かれています。イエスが山上の説教の中でこれらの有名な言葉を口にされたとき、ある解釈者たちが言うように、旧約聖書を捨てようとか、廃止しようとかしておられたものではありません。そうではなく、当時の解釈者たちが用いた聖書のさまざまな解釈や言い伝えに対処されたのです。それらは、神が容認も、命令もしておられなかった他者への行動（例えば、敵を憎むこと〔同5：43参照〕）を正当化するために用いていました。

イエスは、何らかの形で旧約聖書を廃止したり、多少なりともその権威を軽んじたりなさいませんでした。むしろイエスは、神の本来の意図を私たちに示すことによって、旧約聖書の言葉の意味を強められたのです。

イエスの権威を用いて聖書の資格を奪ったり、聖書のある部分を、靈感を受けていないと過小評価したりすることは、たぶん最もわかりにくい、しかし最も危険な聖書への批判の一つでしょう。なぜなら、それはまさにイエスの名においてなされるからです。私たちには、（当時、旧約聖書だけから成っていた）聖書にイエスがとても大きな権威を与えておられたというお手本があります。私たちが旧約聖書をどう評価すべきかということに関して、これ以上の証拠が必要でしょうか。

イエスは聖書の権威を弱めるどころか、信頼できる手引書として聖書を絶えず高く掲げられました。実際、彼はまさに同じ山上の説教の中で、「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」（マタ5：17）と明確に言われました。さらに続けて、「これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる」（同5：19）とも言われたのです。

主要な教理で、今日に至るまでその根拠が旧約聖書にある教理には、どのようなものがありますか。例えば、天地創造（創1章、2章）や墮罪（同3章）を思い浮かべてください。旧約聖書の中に見いだされるキリスト教の重要な真理で、のちに新約聖書で強化された真理には、ほかにどのようなものがありますか。

私たちの生活は多忙で、緊張とストレスにあふれがちです。私たちは、自分を幸福にし、満足させるだろうと思う物を欲しがります。しかし、ソロモンはコヘレトの書の中で、必ずしもそうはならない、と私たちに警告しているのです。

理由はどうであれ、私たちは生活においてひどく忙しくなり、その忙しさの中で、いとも簡単に神を締め出してしまう可能性があります。それは、私たちが信じていないからではなく、私たちが聖書を読み、祈り、「あなたの命……を手中に握っておられる」（ダニ5：23）主に近づくことで、充実した時間を過ごさないからです。私たちはみな、救い主なるお方、イエスと会うために、スピードを意図的に落とす時間を必要としているのです。私たちが立ち止まって聞かなければ、聖霊はどうやって私たちに語りかけることができになるのでしょうか。御言葉を読み、祈りによって交わり、神と特別に過ごす静かな時間は、私たちの霊的生活の源です。

問4 詩編 37：7、46：11（口語訳 46：10）、62：2、3、6（口語訳 62：1、2、5）を読んでください。神と過ごす静かな時間について、これらの聖句はどのようなことを教えていますか。神と過ごす静かな時間は、なぜ大切なのですか。

もしあなたがだれかを愛しているなら、その愛する人と2人きりで楽しい時間を過ごすでしょう。邪魔されることなく神の言葉を読み、じっくり考えることのできる場所を選んでください。忙しい生活の中でそれが可能になるのは、このような出会いのために、あなたが特定の時間枠を意図的に予約するときだけです。しばしば、毎日の始まりが、このような沈思黙考のわずかな時間として最適です。就業日が始まる前のそのようなひとは、1日の残りの時間全体にとって祝福となりえます。なぜなら、あなたが得た知見は、長時間にわたってあなたに伴うからです。しかし、邪魔されることなく神とお会いするのに必要とされる適切な充実した時間を見いだすには、工夫しなければなりません。

祈りによって聖書の生ける神とつながることは、ほかのどんなこともなしえない形であなたの生活に影響を及ぼします。最終的に、あなたがもっとイエスのようになるために役立つのです。

あなたはどれくらい意図的に、神と2人きりで過ごす時間を得ようとしていますか。それはどのような時間ですか。その時間は、あなたが神の本質と愛をさらによく知るうえで、いかなる助けとなっていますか。

「わたしは仰せを心に納めています／あなたに対して過ちを犯すことのないように」(詩編 119: 11)。

聖句を暗記することは、何倍もの祝福をもたらします。聖書の貴重な言葉を心に蓄えるとき、私たちは暗記されたことに命を吹き込み、それを新しい、変化する状況の中で生かすことができます。そのようにして、聖書は私たちの思考や決定に直接影響を及ぼし、私たちの価値観や行動を左右します。聖句を暗記することは、日々の経験の中で聖書を現実のものにし、さらに、私たちが神を礼拝し、聖書に従って忠実な生活を送るうえで助けになるのです。

聖句を1語1語覚えることは、欺きや偽りの解釈に対するすばらしい予防策です。聖句を暗記することで、聖書が手に入らないときでさえ、私たちは聖句を引用することができます。これは、誘惑が生じたり、逆境に直面したりするような状況において、善を行うための大きな力になります。神の約束を思い出し、心を問題に集中させるのではなく、神の言葉に集中させることで、私たちの思いは神へ引き上げられるのです。その神は、私たちが八方塞がりに見えるときにも、助ける手段をたくさん持っておられます。

問5 エフェソ5:19、コロサイ3:16を読んでください。神の言葉を歌うことによって、私たちの心の中で神の言葉はいかに定着し、強められますか。

聖書の言葉を歌うことも、聖句を記憶するための効果的な方法です。歌うことで、聖書の言葉はより簡単に覚えることができます。聖書の言葉を美しい旋律と結びつけると、私たちの思考にしっかり固定され、不安な気分を効果的に一掃してくれます。単純ながらも調和したメロディーに結びつけられた聖書の言葉は、大人と同様、小さな子どもでも簡単に歌い、記憶することができます。聖書は、数多くの世界的に有名なオラトリオ、交響曲などの音楽にとって創造的刺激を与えるものであり、それらの音楽は何世紀にもわたってキリスト教文化を形成し、影響を与えてきました。私たちの心を引き上げ、思いを神と御言葉に向けさせる楽曲は、私たちの人生におけるすばらしい祝福、好ましい影響を与えるものです。

「音楽は、天の宮廷の神の礼拝の一部になっている。であるから、われわれは、できるかぎり、天の合唱隊と調和した声で、賛美の歌をうたうように努力しなければならない」(『希望への光』311ページ、『人類のあけぼの』下巻257ページ)。

参考資料として、『キリストへの道』の「祈りの特権」の章を読んでください。

「人間本来の目は、キリストの美しさを見ることができない。聖霊は罪を負われるキリストの憐れみと赦し、すべてを満たす十全性がなければ、人の魂は望みなく、助けなき状態であることをお示しになります。この内なる魂を照らす聖霊によってのみ、人はキリストの無限の憐れみ、その比類なき愛、慈悲、栄光を認めることができるのであります」（『天を見上げて』155ページ、英文）。

「聖書の一部、あるいは1章丸ごとさえ記憶し、サタンが誘惑するためにやって来るとき、それを暗唱することができる。……サタンが世俗的、官能的なことを考えるように心を誘導するとき、彼に抵抗する最も効果的な方法は、『聖書にこう書かれている』という言葉である」（『アドベンチスト・レビュー・アンド・サバス・ヘラルド』1884年4月8日号、英文）。

話し合いのための質問

- ① 自由意志と自由選択の現実は、信仰と服従に関する私たちのすべての決定に、どのように関わってきますか。私たちの人生の多くの領域は制御できませんが、極めて重要な事柄、永遠の命に関する事柄については、私たちが自由に選択できます。神が与えてくださった自由意志を用いて、あなたは何をしていますか。どのような霊的選択をしていますか。
- ② 神との静かな時間を私たちに与えることに関して、安息日はどのような役割を果たしうるか、また果たすべきか、考えてください。安息日を守ることによって、仕事に熱中したり、神と時間を過ごさない事柄に夢中になったりすることから、あなたはどのように守られていますか。どうしたら安息日をもっと霊的な（本来意図されていた）祝福にすることができるのでしょうか。
- ③ 祈りや聖書研究をして神と2人きりで時間を過ごすことにおいて、あなたはどのような体験をしてきましたか。このような霊的習慣は、あなたの信仰にどのような影響を及ぼしていますか。また、どのような影響を及ぼすべきですか。安息日学校のクラスで、もし差し支えなければ、あなたの個人的な読書の時間や祈りの時間について、またそれらの時間から得たものについて話してください。あなたが学んだことから、ほかの人はいかに益を得ることができるのでしょうか。
- ④ あなたが暗記している大好きな聖句には、どのようなものがありますか。それらのどういうところが、あなたは好きですか。それらを暗記したことで、あなたはどのような祝福を受けましたか。